

商学部における特色ある学部教育の補助「見学調査」 報告書

テーマ	食を通じて捉える多文化社会と宗教実践 ——都市空間・宗教施設・民族料理を対象としたフィールド調査				
科目名	ベーシック演習Ⅰ				
担当教員	福西 由実子				
調査先	1. 東京都新宿区・新大久保エリア 2. 東京都渋谷区・東京ジャーミイ（代々木上原） 3. 東京都渋谷区・ウイグル料理店「シルクロード・タリム」（初台）				
調査日	2025年7月20日(日)				
参加学生数	1年生	18名	2年生	名	3年生 名 4年生 名

調査の趣旨（目的）
本見学調査は、ベーシック演習（福西ゼミ）の授業テーマ「食を通して社会を読み解く」に即したフィールド調査であり、以下の観点を含む体験学習を目的とした： ・食と宗教（イスラームにおけるハラール規定と礼拝の実践） ・食と民族・文化（ウイグル料理におけるアイデンティティの保持と表象） ・多文化共生と都市空間（新大久保における言語表示、文化的装飾、消費の構造） ・食を通じた異文化理解と考察力の涵養 また、秋学期に予定しているグループ発表に向けた素材収集および観察の実践的訓練としても位置づけている。
調査結果
今回の見学調査では、学生一人ひとりが多文化的な食空間に自らの身体を置き、現地の空気を感じながら歩き、食べ、見て、聞くという五感を通じた体験を重ねることで、食を入口とした宗教・民族・都市・政治といった社会的テーマへの関心を実感的に深めることができた。 とくに東京ジャーミイでは、モスクの建築や礼拝空間に足を踏み入れただけでなく、施設の職員による丁寧なツアー説明に加え、トルコ人スタッフから直接インタビューを受け、礼拝場では女性学生一人ひとりがスカーフの巻き方をレクチャーしてもらうなど、異文化を単に“外から眺める”立場から、ある種の“内側に入る”経験へと移行する貴重な機会となった。 新大久保では、韓国系の文化的演出に加えて、中東や東南アジア、アフリカ系の食材店やレストラン、雑貨店なども多く目に入り、ひとつの街に複数の文化が共存している実態を観察できた。「共生とは何か」「異文化の消費」とはどういうことかを考えるきっかけとなった。 また、ウイグル料理店では、羊肉を中心とした食材選択やメニューの構成、空間演出などに民族的・宗教的背景が表れており、食を通じたアイデンティティの表現と政治性を読み取ろうとする視点が育まれた。 今後、秋学期にはこの調査で得られた気づきをもとに6班に分かれ、「宗教と食」「観光と異文化の記号化」「政治と料理の関係」など多角的なテーマでグループ発表を行い、テキスト輪読と接続させながら議論を深めていく予定である。

